

～育てよう！ 強く明るい えひめの子～

青少年育成だより



令和3年度「青少年の非行・被害防止県民大会」にて優良青少年団体知事表彰を受賞した
愛媛県立三崎高等学校吹奏楽部 代表の大西友海さん

毎月第3日曜日は「家庭の日」です。

愛媛県青少年育成協議会・愛媛県

〒790 - 8570 松山市一番町4丁目4-2 (県民生活課内)

TEL 089 (912) 2336

青少年の非行・被害防止県民大会の開催

愛媛県では青少年の非行・被害を防止し、健全育成を図るため、毎年7月を「青少年の非行・被害防止強調月間」と定め、県民総ぐるみの活動を推進しています。

愛媛県青少年育成協議会では、同月間内の取組として、県民の皆様には青少年の非行、被害防止の意識を高めていただくとともに、県民総ぐるみによる青少年の健全育成を推進していくために、県、県教育委員会、県警察本部と共催し、7月30日(金)「青少年の非行・被害防止県民大会」を愛媛県生涯学習センター(松山市上野町)で開催しました。

大会では、様々な社会貢献活動等で功績のあった団体、個人に対する「優良青少年団体及び青少年知事表彰」の授賞式や、当協議会野間会長による「大会宣言」などの式典、NPO 法人チャレンド福祉相談室長の山内幸春氏を講師にお招きして、「インターネットゲームにはまる子どもの立ち直り支援について」と題した講演を行いました。

【大会の様子】



【主催者挨拶】

愛媛県知事
 (代読) 愛媛県県民環境部
 部長 宇佐美 伸次

【大会宣言】

愛媛県青少年育成協議会
 会長 野間 逸元



【優良青少年団体知事表彰】

○愛媛県立三崎高等学校 吹奏楽部

○四国中央市立松柏小学校 緑の少年団

○日本ボーイスカウト愛媛県連盟松前第1団

○森の国子ども会議

○東予理容美容専門学校 (式典欠席)



【優良青少年知事表彰】

○秋山 響

○二宮 快地



【講演】

山内 幸春 氏



【優良青少年団体及び青少年知事表彰受賞者】

●団体の部

団体名（所在地）	代表者	功績の概要
愛媛県立三崎高等学校 吹奏楽部 (伊方町)	大西 友海	<p>「地域に元気と笑顔を」をモットーとして活動しており、地域の祭りやハロウィン、敬老会、文化祭などの地域行事において積極的に活動している。</p> <p>令和2年には新型コロナウイルスの影響で各種イベントが中止となったものの、敬老の日に合わせ、「おじいちゃんおばあちゃんありがとうプロジェクト」を企画し、演奏動画をまとめたDVDを高齢者施設に配布したところ、入所者から「生きる意欲が湧いた」など好評を得た。</p>
四国中央市松柏小学校 緑の少年団 (四国中央市)	小河 天花	<p>校区内の歩き遍路コースや公園、学校付近の街路にツツジやまき等の植樹を行い、植えた木々の手入れを継続するなど地域における環境美化・整備に大きく貢献している。</p> <p>学校近くの水田でもち米を育て、収穫したもち米で地元婦人会と合同でおはぎを作り、地域の独居老人に配るなど、地域福祉活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>稲わらを使って地域老人会としめ縄作りをするなど、地域の伝統文化の継承を行っている。</p>
日本ボーイスカウト 愛媛県連盟松前第1団 (松前町)	福嶋 文香	<p>結成以降長年にわたり、年2回の街頭募金などを実施している。</p> <p>年1回程度石手川の清掃活動や松前町内の郵便ポスト清掃活動を実施するほか、3年に1回海岸清掃活動を実施している。清掃活動の際は保護者にも参加を呼びかけ、毎回約50名程度のスタッフが集まっている。</p> <p>社会貢献活動には小学校低学年から25歳以下の成年まで幅広い年代の隊員が参加しており、毎回の参加率が非常に高く、長年にわたり継続して社会貢献活動を続けている。</p>
森の国子ども会議 (松野町)	井上弘一朗	<p>松野町内の小中学校の全児童・生徒が所属する人権や福祉を考える団体であり、町が提唱した「人心緑化憲章」の実現のため、町内での「クリーン作戦」、町を活性化するための「あいさつ運動」、集まった募金で福祉施設へ日用品等を贈呈する「一円玉募金運動」などを展開している。</p> <p>所属児童・生徒が一堂に会する「子ども会議」では、より良い学校づくりについて話し合う機会を設け、SNSを正しく利用するためのルール作り、いじめのない学校にするための方法等について語り合った。</p>
東予理容美容専門学校 (新居浜市)	岡 千尋	<p>生徒たちが学校で習得した美容・理容技術や知識を活かし、福祉施設でのハンドマッサージ等の実施や新居浜市花火大会をはじめとする多数の地域イベントでヘアアレンジ等を実施するなどボランティア活動に取り組んでいる。</p> <p>地域の環境美化のためゴミ拾い活動に取り組んでおり、平成27年度に新居浜市から環境美化功労者表彰を受けている。</p>

【優良青少年団体及び青少年知事表彰受賞者】

●個人の部

氏名	功績の概要
<p>秋山 響 (新居浜市)</p>	<p>愛媛県立新居浜南高等学校在学時の3年間ユネスコ部に所属し、3年次には部長として行政、地元企業、地域住民等と広く連携しながら別子銅山学習に取り組み、様々な情報発信を行い、大きな成果を上げた。</p> <p>平成30年には高校生地域創造サミットでベストアイデア賞を受賞し、平成31年には第6回カンボジアスタディツアーに参加するなど、県外、海外での活動で成果を上げている。</p> <p>令和2年には新居浜ユネスコ協会の青年部長や、銅山峰のツガザクラ群落調査委員会の委員に就任し、各活動に積極的に取り組んだほか、ホストタウンみらいミーティングでは新居浜市高校生代表として全国90の自治体、約180人に向けて新居浜市の魅力をPRするなど、自身の学びを活かして様々な情報発信を行っている。</p>
<p>二宮 快地 (松山市)</p>	<p>幼い頃から防災に興味を持ち、小学校4年生の時に全国最年少(平成28年当時)で防災士資格を取得した。</p> <p>平成28年から高浜地区自主防災連合会で防災士として活動し、地域の防災訓練の指導や福祉施設で防災講演を行う等の活動をしている。</p> <p>平成30年7月豪雨では、ボランティア本部の運営をはじめ、地域の復旧・復興に尽力した。</p> <p>令和2年度から松山市と愛媛大学が結成する「ジュニア防災リーダークラブ」に参加し、防災キャンプや防災まち歩きを通じて、防災に必要な知識や技術を身につけた。防災リーダーとしての意識が高く、他者の模範となる姿勢を示し、地域のために積極的に活動を行っている。</p>



大会宣言

次代を担う青少年の育成は、社会全体で一体的に取り組むべき課題であり、県、市町、関係団体等が、それぞれの役割及び責任を果たしつつ、相互に協力しながら、地域が一体となった青少年の非行・被害防止のための取組を進めることが必要である。

このため、「青少年の非行・被害防止県民大会」を開催するにあたり、県民総ぐるみによる青少年の非行・被害防止及び健全育成運動を一層強力に推進していくため、次のことを宣言する。

- 一、 SNS利用に起因する青少年の犯罪被害を防止するため、フィルタリングの更なる利用促進を図るほか、コンテンツや利用時間を管理するペアレンタルコントロール機能の積極的な活用等について啓発する。
- 一、 青少年が、「JKビジネス」等に係る被害を受けることがないように、被害事例や相談窓口、被害に遭わないための対処法等について広報啓発を行う。
- 一、 有害図書類等の販売、貸付等について、「愛媛県青少年保護条例」に基づく対策の徹底を図るとともに、インターネットカフェ、カラオケボックス等への青少年の深夜の立入制限の徹底を図る。
- 一、 家庭や地域社会、関係機関等が一体となり、大麻、覚醒剤、危険ドラッグ等の危険性や有害性に関する正しい知識の普及を積極的に推進するなど、薬物乱用の防止に関する指導の充実を図る。
- 一、 地域の実情に応じた補導活動等を展開するとともに、万引きや自転車盗等が犯罪であり、絶対に行ってはならないことであるとの規範意識を少年に身に付けさせるための取組を推進する。
- 一、 再非行の防止の重要性について県民の理解を深め、地域における相談機関相互の連携を強化し、青少年や保護者・家庭からの相談に対し、よりの確に対応する。
- 一、 暴力行為や「インターネット上のいじめ」も含め、問題行動の被害に遭っている青少年が、一人で悩み苦しむことのないよう、早期把握や解明に努め、問題行動を起こした少年に対する適切な処遇、指導監督の推進及び再発の防止を図る。

令和3年7月30日

青少年の非行・被害防止県民大会

愛媛の未来をひらく少年の主張大会を開催

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、会場開催を中止し、動画審査(DVD)にて、令和3年度「愛媛の未来をひらく少年の主張大会」(共催：愛媛県、愛媛県教育委員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構)を開催しました。43回目を迎えた今年度も県内各地から994名もの中学生の皆さんに応募をいただき、その中から予備審査により選ばれた10名が家族や社会の中で興味を持ったことなどについて発表しました。

いずれも審査員の心に響くすばらしい発表でしたが、今大会の最優秀賞は新居浜市立別子中学校3年の大岡愛実さん、優秀賞は新居浜市立中萩中学校3年の岩崎奏さん、新居浜市立別子中学校2年の弓山賀子さんの2名が受賞されました。最優秀賞の大岡さんは、11月にWEB開催される「少年の主張全国大会～わたしの主張2021～」に愛媛県代表として推薦しています。なお、全国大会には、各都道府県47名の中から選ばれた12名が出場することとなっています。

◎審査結果

最優秀賞	違いが生む特別 新居浜市立別子中学校 3年 大岡 愛実
	今をどう生きる 新居浜市立中萩中学校 3年 岩崎 奏
優秀賞	『恩送り』 新居浜市立別子中学校 2年 弓山 賀子
	周りを知ろうとする心 松山市立桑原中学校 2年 青木 あめか
優良賞	女子だからって、なに 今治市立近見中学校 2年 岩崎 楓恋
	「家族ってすばらしい！」 今治市立北郷中学校 2年 大川 若菜
	「選挙権」と今の私たち 宇和島市立城東中学校 3年 大野 香雪
	今の私にできること 松山市立桑原中学校 3年 倉橋 花奏
	「性別における差別について」 宇和島市立城東中学校 3年 榮 朱莉
	夢～住む人がつくる町～ 愛南町立一本松中学校 2年 杉本 結奈

最優秀賞

違いが生む特別

新居浜市立別子中学校 3年 おおおか大岡 まなみ愛実

「まなちゃん男の子みたいだよ!!もっと女の子らしくしないと。」

これは、私が昔よく言われていた言葉です。

私は、その頃の自由で活発な自分が大好きでした。小学生の頃からサッカーを習い、短い髪に憧れていた頃です。私は、この言葉をすぐに理解できませんでした。しかし、高学年になると私も変わっていきました。それは、女子グループの中で決められた、ある『基準』ができてしまったからです。「これをする子は女の子らしくない。」その基準から大きく外れている人が次から次へと孤立していったのです。私は孤立することが怖くなり、少しずつ自分を隠すようになりました。誇りであったはずのサッカーも、短い髪への憧れも隠して生活するのは、とても息苦しいものでした。しかし、「孤立したくないなら、自分が周りに合わせて変わらないといけないんだ!」と一生懸命自分に言い聞かせて、過ごしました。

私は、今の生活を変えたいという意思を持ち、小規模校の別子中学校に入学しました。私は、そこで出会った一人の女子の先輩に驚かされました。その先輩は、私と同じくサッカーをしていて、髪型はベリーショート。先輩は何のためらいもなく、自分を貫き通しているように見えました。その姿を見た時、「えっ!こんなにも自由にしているのに、孤立しないの?」という疑問が浮かびました。しかし、先輩と話すうちに、先輩が一人にならないのは、先輩のやさしさや心の広さを、誰もが認めているからなのではないかと思うようになりました。私は、ついに尋ねました。「先輩は、あまり女の子らしくないですけど、一人だけ孤立するのは気になりますか?」と言うと、「いいんだよ。自分の人生なんだから。それに女の子らしいとか関係ないじゃん。」と当たり前のように答えてくれました。女子はこうしないといけない。そんな周りの基準よりも、『自分らしさ』を追いかける先輩に憧れました。

私はそこから考え方を変えていきました。先輩のように胸を張って自分らしく生きるために、まず、自分の長所と短所を理解して、自分らしさを取り戻していこう。そう決意しました。そうして、自分らしさを取り戻す中で、新しく見えてきたことがありました。それは「人への見方が変わったこと」です。私は、中学三年生から寮長として話し合い活動などをまとめる役割を担うようになりました。そのとき、「この人はこれができない。」というネガティブな発想ではなく、「この人はこんなことができるから、こんなグループにして、話し合いを充実させよう。」と一人一人の性格を前向きにとらえられるようになりました。そのことで皆のそれぞれの違いや自分らしさをさらに好きになることができました。そんな今では、昔までの息苦しさがなくなり、本当の私を大切にしてくれる仲間に出会うことができたと思います。

今、周りがつくった、ある『基準』に囚われて、個性の違いが持つすばらしさに気付いていない人が沢山いると思います。SDGsの一つであるジェンダー問題も一人一人の考え方の変化で、解決できると思っています。まずは小さなことから!みなさんも、周りとは違う所をその人の良さと考えてみてください。きっと皆や自分、一人一人が特別な存在であることに気付けるはずです。そして私も、自分の「特別」を大切に、自分らしく生きていきます。

優秀賞

今をどう生きる

新居浜市立中萩中学校 3年 いわさき かなで 岩崎 奏



「こんなはずじゃなかったのに…」

それは怒りとも苛立ちとも言える、でも諦めも混じったような、やり場のない感情…。

昨年の春、海の向こうの話だと思っていた新型の感染者は、あっという間に私たちの身近なものになりました。行きたい所に行けず、会いたい人に会えない不自由な日々。二か月近くに及ぶ休校、行事や部活動の自粛…。当たり前が当たり前ではなくなる日常に、私は戸惑うばかりでした。

私は吹奏楽部に所属しています。部活動は私にとってかけがえのないものです。しかし、吹奏楽の性質上「三密を避ける」ということは難しく、当然、活動には大きく制限がかかりました。その時私は、先の見えない暗闇の中にいるような不安な気持ちでいっぱいでした。世界中に流行が広がるのを、じっと黙って見ているしかない毎日。何をどうすることもできないまま、一番恐れていたことが現実になってしまいました。

「吹奏楽コンクールと、マーチングコンテストの中止」

私を含めて誰もがある程度予想していたことでしたが、いざ現実に直面した時、体の力が抜け、頭が真っ白になりました。そして、このことはもう一つの大きなことを意味していました。それは、「先輩たちの四か月も早い引退」

大会のために先輩や私たちは毎日練習に励んできました。みんなで一緒に最高の演奏をしよう。そう言いあっていたはずなのに、突然すべてが終わってしまうなんて…。今まで積み上げてきたものが一瞬にして崩れ去ったことが、本当に悔しくて…。涙を流すことしかできませんでした。そんな私たちを見て、先輩たちは励ましてくれました。一番辛いのは自分たちのはずなのに…。先輩たちは、最後まで涙を見せず、去っていきました。

学校が再開されても、私は目標を見失い、鬱々としていました。イライラを家族にぶつけてしまうこともありました。そして、いつの間にか明るい未来や、楽しい予定を考えることすらできなくなっていました。そんな時、気晴らしで見た、好きなアーティストのコンサートのDVDで、私は偶然ある言葉に出会ったのです。

「今をどう生きる。」

自分の人生は自分で切り開くことができるはず。あなたは自分の意志で、今を生きていますか？

まるで、音楽の神様が私に問いかけてくるように思えました。この強い言葉は、私のくすぶっていた心を大きく突き動かしました。そうだ。今は、今この一瞬しかない。ずっと下を向いていても、誰かのせいにしても、何も変わることはない。どんな状況でも、今を生きているこの時間を無駄にしないために、悔いなく過ごすべきなのだと思います。そして、部活動も、できる限りの感染対策をしながら、大切な後輩たちにいろいろなことを教えていこう。それは、先輩たちの意志を受け継いでいくことにもなる。そう考えるようになりました。今は、夏のコンクールに、あの時一緒に夢を見た先輩たちの思いとともに、みんなで舞台に立つという目標に向けて、毎日頑張っています。

未だ感染の収束が見えてこない今、これからも不自由な日々を、私たちは過ごすことになるでしょう。ですが、今とどう向き合い、この瞬間をどう生きるかは自分で自由に決めることができます。だから今日も、私は前を向いて生きていきます。後悔はしたくない。今は今しかないのだから。

優秀賞

『恩送り』

新居浜市立別子中学校 2年 弓山 賀子



皆さんは、「恩送り」という言葉を知っていますか。

私は、昨年から、寮生活をしながら中学校に通っています。入学した頃の私は、初めての中学生活や寮生活に対して、期待と不安を抱えていました。慣れない寮生活の中で、戸惑うこともあったのを今でもはっきり覚えています。それでも、私の周りには心強い先生、同じことを経験した先輩たちや共に成長していく同級生が近くにいて、こんな私を丁寧に手助けしてくれました。そのおかげで、少しずつ不安な気持ちも消え去りました。この体験で、人と人とのつながりの大切さを実感することができ、私の毎日は、更に楽しく、充実したものとなりました。

ドキドキした春、みんなとの仲が深まってきた夏、そして、季節は秋になりました。この時期には、校内マラソン大会がありました。私にとって、別子山でのマラソンは決して簡単なものではありません。練習の時から同級生と声を掛け合い励ましあって本番に向けて準備をしましたが、本番で走り切れるかどうか不安な気持ちはぬぐい切れません。するとやはり本番では、折り返し地点に来る頃には、お腹が痛くなり、このまま走り続けられるか不安な中でも、「ここで諦めるものか」と一步一步走り続けました。そして、ゴールが近くなってきた時のことです。

「頑張れ！！あともう少し。」

これは…仲間の声です。私よりも先にゴールした仲間たちが応援をしに来てくれたのです。仲間の顔を見ると、なんだか安心して、不思議と力が湧き出てきました。その声援のおかげで私は、最後の力を振り絞ることができたのです。パワーをくれた仲間、心の底から有り難い気持ちでいっぱいになりました。

この経験から一か月後、私が読んだ本でこんな言葉を見つけました。それは、『お、ん、お、く、り』恩送り。この言葉は、誰かから受けた恩を、その人に直接返すのではなく、別の人に送るという意味です。その時、私は気づきました。私は、受けた恩を直接その人に返すことしかしていなかったことに。これまでの私を振り返ってみると私の周りにはたくさんの方がいました。家族、先生、先輩、同級生や小学生、寮の職員さんに地域の方々。その他にもたくさんの方が、過去も現在も私を支えてくださっています。今までの私は、誰かに何かをしてもらったことに対して、お礼を言ったり、恩を返そうとはしていませんでした。しかし、それ以外の人に恩を送るという考え方はなく、そんなことをしてはいませんでした。この言葉に出会ってから、今まで自分にしてもらったことを、今度は自分が周りの人にしてあげたいと思うようになりました。私には、これまで周りの人からしていただいたことで嬉しかったことや感謝していることがたくさんあります。「次は私の番だ！」そう思い、これからは自分が周りの人に送ることを意識していきたいです。

そして、恩送りを始めてから、私は、この恩送りには、すごい力があると気づかされました。誰か一人が恩を送ると、今度はもらった人がまた別の人に渡して、また送っていくことで、たくさんの嬉しい気持ちが広がるのです。この言葉には、こんなに素敵な力があるのです。皆さんが身近な人からもらったことを思い出してみてください。その人への感謝の気持ちを、その人だけでなく、他の人に送るとしたら、誰にどんなことをしようと思いますか。恩送りをより多くの方がすればするほど、今よりもっともっと温かくて優しい世界になります。だからこそ、皆さんもぜひ恩送りをしてみてください。そうして、世界中がたくさんの笑顔で溢れますように。私は、それを行動で実践していきます。